

あまみす

雨水利用を進める市民の会
 会長 辰濃 和男
 〒131 東京都墨田区東向島1-8-1
 ☎ 03-3611-0573
 FAX 03-3611-0574

8月8日(金)～10日(日)開催の

'97 雨水フェア

in おきなわ実行委員会
 発足!

—3月27日、沖縄で—

「考えよう、活かそう、雨水の有効利用」をテーマに「'97 雨水フェア in おきなわ」が来る8月8日から10日まで3日間、沖縄市市民会館で開催されます。これに向けて開催実行委員会が3月27日に発足。雨水利用を進める市民の会からは辰濃会長が出席しました。

◎

この実行委員会は、沖縄県をはじめとして那覇市、沖縄市、沖縄県市長会、沖縄県町村会、日本水道協会の沖縄支部などがメンバーになりました。もちろん、私たちの市民の会も加わっていますし、新たにできる沖縄県雨水利用を進める市民の会も参加するはこびになっています。

◎

開催目的は「水資源にとほしい沖縄の水問題の解決にむけて、雨水の有効利用に関する技術や文化の交流、情報交換を行い、雨水利用の推進を図る」としています。共催の沖縄タイムスをはじめ、後援、協賛にも市民団体、企業、商業団体、NHK沖縄放送局などのマスコミなどから50件近い申込みがあり、全県をあげて雨水利用を推進していこうとしています。

◎

内容は、雨水利用のシンポジウムや市民フォーラム、雨水の文化交流などが予定されています。また、現地の雨水利用施設の見学会や食・文化の交流会、子どもの広場なども企画中で、雨水以外に沖縄に興味を抱いている方々や子ども達にも楽しめそうです。

規模も1000人を超えるものを予想しており、今年の沖縄はいつもとは一味違った暑い夏になりそうです。

時間がゆっくり流れるところで「雨」を考えてみるのもいいものですね。

きこと
 沖縄には
 「充実」があります

割引航空券での参加申込み 受け付け中

市民の会では「'97 雨水フェアinおきなわ」で、幾つか提案をする準備をしています

《提案・その1》

嘉手納基地での 雨水利用

○ 市 川 龍

昨年1月、市民の会有志による沖縄県の雨水利用調査に参加しました。そのとき、見学先のひとつに米軍の嘉手納基地がありました。沖縄市の重要な水源のひとつである、基地内の井戸を見学するために入ることができたのですが、話に聞く嘉手納基地の、特に滑走路、その広さに圧倒されました。そして、基地内では雨水利用をしていないような印象を得て、帰って来ました。

そうこうしているうちに、今年の雨水フェアを沖縄で開催する話が現実化し、ついに、2つのキーワード、「嘉手納基地」と「雨水利用」が私の頭の中で結びつくことになりました。

そう言えば、1994年の雨水利用東京国際会議のセッション1でシンガポールから参加したA・アバン氏（大学教授）が、自国のチャンギ空港で行っている雨水利用について発表していたのを思い出しました。昔の資料（論文集）を取り出してみると、シンガポールの年間降水量が2,200mm弱、530haの空港敷地から雨水を集めて、月平均 63,500m³もの量を雑用水として有効利用しているとのことでした。

嘉手納基地の滑走路およびその周辺では、地図から読み取るかぎり、少なくとも360ha位から水を集めることができそうです。那覇市の年間降水量が2,100mm余りありますから、チャンギ空港を参考にすると、月平均4万m³位の雑用水を確保できる計算になります。（こうした数値は、シミュレーションによる解析を加え、ポスターセッションで発表したいと思います）。

「沖縄から米軍基地が撤退した後に、沖縄県民のための水源（＝雨水利用施設）が残る！」。このプロジェクトにロマンを感じた方は、ぜひ事務局まで、ご連絡ください。

《提案・その2》

平和通りアーケードの

雨水利用

○ 松本 正毅

沖縄の国際通りをご存知ですか？ 有名な市場です。戦前は大湿地帯で、田畑や墓地が続くさびしい場所だったそうです。元の市場を米軍に占領されてしまった住民が、住み着き、市を立てたのが始まりで、今は沖縄住民のバイタリティの象徴になっています。平和通りは、この国際通りの中程の入口にある商店街です。

平和通りを中心に、三つの公設市場と水上店舗、新天地市場などが結ばれています。総称してマチグラー（市場）と呼ばれています。

今回、検討しようとしているアーケードは、国際通りから斜めに入っていく平和通り（320m）、ほか、市場本通り街（148m）、市場中央通り（340m）、サンライズ那覇商店街（290m）などつながっており、全長1565mの複合型の、かなり長いアーケード街です。なかには、路地的な空間もあり、木造の切り妻屋根が架かっているところもあります。

4月初旬、沖縄市の企画部企画調査室の横山氏より平和通りの図面をいただきました。現在、集水面積などをはじき出し、開発方針・貯水方法・利用方法を検討しようという段階です。何か、いいアイデアがあれば、FAXなどで送ってください。（担当：松本 FAX 03-3624-9542）

「97 雨水フェア inおきなわ」に向けて始動中!

プロジェクト いろいろ

雨水カレンダー

「雨暦」'98年版の作成

☆ 大塚 康三

前回同様、「デザインルーム・ロゴ」のみやもと文緒氏に参加していただきながら、現在、98年版の企画作りの真っ最中です。前回のカレンダーについては概ねご好評をいただいているようですが、反省すべき点も少なからずありました。「保存できるよう、めくり式にしてほしい」との要望は、アンケート回答者の半数以上の方からありました。早速、検討しましたが、予算や大きさの問題、カレンダーという制約された条件などから、要望にお応えすることは無理で、前回と同様の切り離し式にすることにしました。

そもそもカレンダーの企画というのは大変にむずかしいものです。2ヵ月間、壁にかけて、

見飽きない内容が、まず求められます。だからといって、欲張ってあれもこれもと内容を盛り込むと、参考書のようなこってり味のものになってしまい、イメージとの差にガク然とします。その都度、みやもと文緒氏にご指摘を受けながらの企画会議となっています。

来る8月の雨水フェアには、サンプルページの公開を予定しております。ご期待ください。



なお現在、カレンダーに使用する「雨」に関連する写真を広く公募しております。お心当たりの方はぜひ、制作グループへご連絡ください。

また、98年版は、天気

の予想表部分の英訳併記を企画中で、外国人へのおみやげ用として本格的な企業への売り込みをもくろんでいます。お知り合いに企業おみやげ担当者がいらっしゃる方は、併せて、ご連絡をお願いします。

・ 雨水Tシャツをつくろう

☆ 徳永 暢男

東京国際会議のとき、Tシャツを作って売り、費用の一部にあてました。今回、雨水フェアまでの日数が少なく、さほどの収益は見込めません。でも、揃いのはっぴならぬ「揃いのTシャツ」でフェアの雰囲気をもり上げたということです。Tシャツは一年中着られますので皆さん、ぜひ買ってください。デザインは雨水コンテストで募集中です。

・ 雨水利用コンテスト

主催は「97 雨水フェア in おきなわ実行委員会」です。

Tシャツのデザイン応募締切りは、ちょっと早くて4月30日です。

恒例の雨水利用コンテストは、実践部門・アイデア部門・川柳部門に、今年琉歌部門が加わりました。ぜひ奮ってご応募ください。こちらの応募締切りは、6月13日です。さて、素敵な賞品を獲得するのはどなたでしょう？



「雨乞いプロジェクト」

現代の雨乞いを探して

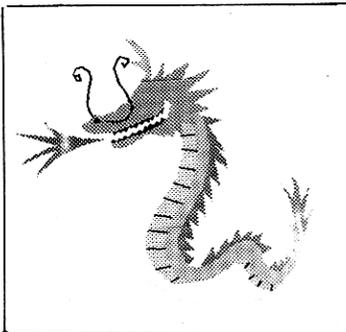
◆ 谷本 有美子

この3月に始動したばかりで、これまで2回の打合せ会を開いたところです。雨水フェアに向けてどんな企画ができるか、雨水事典にどんな内容で載せられるかという2つの柱でアイディアを出し合い、企画を練っています。

雨水フェアに向けた企画としては、雨乞いと雨水利用のシンボルとしてのキャラクターを作ろうという話が持ち上がっています。雨乞いには、龍や蛇そして獅子などが象徴として使われていることが多いので、これらのうち「龍」（これが一番、絵になりそうとの意見で）を元にキャラクターを作っていく予定です。「雨乞い」を検証したパネルコーナーも用意しようということで、これから時間との戦いに入っていくいきそうな気配です。

もう一方では、「雨乞い」に関する資料や情報を集めて、雨水の事典に「雨乞い」の項目で載せていこうという作業に入りつつあります。少しずつ情報が集まり始めています。昨年、埼玉県鶴ヶ島市で「雨乞いサミット」を開催していたことや、今年8月には長野県上田市で「オカミ（雨乞いの神）サミット」を予定していることがわかり、別の地域でも私たちと同じような目的で活動している人たちがいることに感激しています。これからの活動で何か連携ができるといいですね。

情報収集を始めると、資料が集まり過ぎて收拾が



つかなくなってしまうこともあり得るので、このプロジェクトでは、フィールドワークを積極的に採り入れて、現代の自分の地域にどう雨を降らせて利用していくかという視点での「雨乞い」を中心に情報を集めて

いきたいと考えています。「雨乞い」を今も「やっている」、もしくは「やっていた」という情報、お待ちしております。併せて、プロジェクトへ参加しようという方も大歓迎です。

いざ沖縄へ！ 航空券・宿泊の予約受け付けます

「'97 雨水フェア in おきなわ」の成功は、雨水利用を大きく広げていく、エポック的な意味を持っています。ぜひ、ご参加下さるようお願いいたします。

航空券・宿泊費は地元沖縄の実行委員会のご好意でかなりお安くなっています。

友人やご家族連れで参加されて、フェアのあと、休暇を楽しむのもよし、戦跡を回りながらの勉強もよし。さまざまな旅も期待できます。



正式な取扱窓口は沖縄市観光協会で、申込書と詳細を近日中にお送りする予定です。市民の会では5月末まで、ご参加くださる方の氏名・人数を受け付けます。

旅費：往復 39,000円

* 通常の航空券は78,000円です。

* 帰りの日程を変更する場合には現在折衝中です。

宿泊：一泊 6,500円 朝食付き

ご家族連れの場合、

3人目から4,500円

ミニダムは 沖縄を救う

◎ 村瀬 誠

沖縄はここ10年間を取ってみても、給水制限日数が、1987年が22日、1988年が99日、1989年が57日、1991年が64日、1993年が43日、といったように、慢性的な水不足に悩まされている。

沖縄では水が足りないといっっては北部にダムを開発してきた。すでに国のダムが6カ所、県のダムが2カ所建設されてきたが、水不足は一向におさまりそうにない。そこで、現在これらに加え、5カ所のダムが建設中だが、果してそれで解決するのだろうか。

「どうして、“やんばる”（北部地域）ばかりが犠牲にならなければならないのか」。北部の人たちにはダム開発に対してこんな声がある。人口115万人のうち、104万人が那覇市や沖縄市など中南部に住む。水源の恩恵を受けるのはほとんどが中南部地域である。

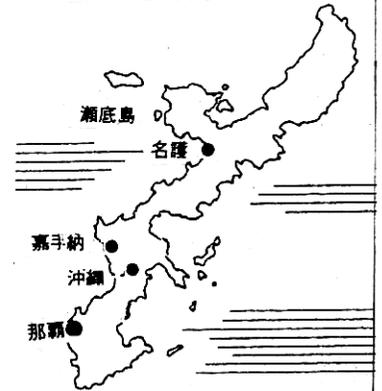
このことは、東京都と群馬県との関係によく似ている。東京でも水が足りないといっっては利根川上流にいくつもの巨大なダムを求めてきた。しかし、そのことによって多くの田畑や山林が

水没し、そこに住む人たちに多大な犠牲強いてきたのである。今から考えれば、水源を遠方のダムに全面的に依存してきたのは間違いだったのかもしれない。これからは、発想を転換して都市のなかにミニダムを作り、水源の自立を目指すべきなのだ。

ミニダムの発想を沖縄にも取り入れたらどうだろう。沖縄での水の年間消費量が約1.7億 m^3 、これにたいして年間平均降水量が約28億 m^3 。この数字は、今後沖縄で雨水利用を徹底的に推進していけば、沖縄の慢性的な渇水を救えることを示唆しているのではないか。また、雨を溜めれば沖縄の赤土の流出の抑制にも寄与するかもしれない。

この可能性を探るために「'97 雨水フェア in おきなわ」が、市民と沖縄県、沖縄市などの地元の自治体との共同で開催される。かつて沖縄では雨水を溜めて利用していた。だが、水道の普及に伴って雨水タンクは姿を消していったのである。本フェアは、失われた沖縄の雨水文化の再構築と沖縄の雨水利用の新たなスタートとなるに違いない。

《沖縄略図》



◎子どもたちの興味と意欲と自主性

去る2月22日に開かれた「雨水探検隊・すみだの稲作り」の発表会は楽しい集いになりました。子どもたちの自主性と可能性に改めて目を開かれる思いがしました。

展示発表は小学校4校、幼稚園3園と墨田川高校でした。壇上での発表は中川小学校、木下川（きねがわ）小学校、ガールスカウト、市川市北方（ほっけ）の中学生と世話人の先生などでした。シナリオをつくって、ニュースステーション方式で発表をしたり、ビデオや表を使ったり、さまざまな工夫が見られました。秋田大瀧村の阿部さんの話にも、200人の参加者が熱心に聞き入っていました。

松戸の磯村さんら、越谷市へ行く

去る一月、松戸市の職員3人と会員の磯村さんの友人たち、総勢10人は、浄化槽を利用した雨水利用などの見学をしてきました。その後松戸市では市役所と市民センターに天水尊を設置するなど、動きがでています。

訃報 石川敏雄先生ご逝去

千葉大名誉教授の石川敏雄先生が交通事故に合わせ入院中のところ、3月25日にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈り致します。



募集

『97雨水フェア in おきなわ』に向けて

沖縄へ行こう 雨水利用事前調査

「97雨水フェア in おきなわ」まで4ヵ月弱に迫りました。市民の会ではフェアに先立って、沖縄の雨水利用の事前調査を企画し、参加者を募集しています。

調査コースは3コース。3グループに分かれませんが、沖縄の雨水利用を多角的に考え、学ぶことができる興味深い内容です。

まだ一度も沖縄を訪れたことのない方もたくさんいらっしゃると思います。特にそのような方々に参加していただき、沖縄のことを知り、身近に感じていただきたいです。もちろん、沖縄を訪れたことのある方も大歓迎です。

日程 5月30日(金)、31日(土)、6月1日(日) 金曜日夜出発
費用 約55,000円。飛行機・宿泊費込み
コース

1 粟国島(あぐにとう)コース

トージと呼ばれる水槽は、粟国島の珊瑚礁の石でつくったものだそうです。昔、1メートル前後の石をくり抜いて雨水貯水に使ったのですが、粟国島にはその作業を忍ばせる、穴ボコだらけの岩礁があります。

2 那覇市・糸満コース

沖縄県庁舎の雨水利用設備を見学します。沖縄市水道局や沖縄タイムス社が毎年、雨水利用のコンテストをやっているような沖縄で、那覇、糸満の個人住宅の雨水利用も工夫がこらされ、なかなか興味深いものがあります。

3 沖縄市・瀬底島(せそこしま)・伊江島コース

雨水利用を積極的に進めている沖縄市(旧コザ市)の実例を、ぜひ知りたい見たい。また、瀬底島には雨水利用の原点ともいえる、木から雨水を集水して使った流し台なども残っています。今も殆ど家に雨水貯水槽があります。伊江島も個人住宅の雨水利用と、できれば沖縄市のダムも見学する予定です。

申込み 5月6日まで受け付けています。雨水利用を進める市民の会へ FAXかハガキで申し込んでください。住所・FAX カバーは一面にあります。



地元の方や、何度か沖縄に行かれている方々から、沖縄のお料理や泡盛などのおいしい店も教えていただけることと思います。実に魅力的ですね。

